

# 自己評価結果公表シート

2022年度

明星幼稚園

## 1. 園の教育目標

ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつげられる幼稚園

教育目標

「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

### 2-1. 全体事業計画

#### (1) 就学に向けて

小学校就学に向けて、「なだらかな接続」を意識したカリキュラムを土台に、言語や確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

#### (2) 一貫教育の推進

明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会において相互理解を深め、就学前教育「アプローチカリキュラム」を実施します。それにより就学へのなだらかな移行を目指し、学内進学者の増加へと結び付けます。

#### (3) 教育目標達成に向けて

保育の特色（「めばえの時間」に位置付けられたカリキュラム・ルーブリック評価・「のびのびタイム」などの明星小学校との連携・個人成長記録「すくすく」・安全対策・就学前教育「アプローチカリキュラム」等）をさらに充実させ、内外に発信します。教員研修・研究により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。

#### (4) 心の教育

園児に小動物（熱帯魚、昆虫等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。また心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく、SDGsや命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。

## (5) 多様な体験

英語遊びではネイティブスピーカーを講師に定期的にレッスンを行い、英語を身近に感じ、聞いたり発語したりすることで、楽しみながら英語に興味を持てるようにしています。さらに異文化に触れ、興味関心の幅を世界に広げることも意識して実施しています。

外部団体との連携では、遠足にプラネタリウム見学を取り入れ、そのための事前学習として、壁新聞などを作成して、当日子どもたちが十分に興味を持てるよう工夫していきます。他にも外部から講師（JAXA 宇宙教育センター・臨床美術士等）を呼んで、園児との交流を計り、子どもたちの感性や興味関心が広がるよう計画していきます。

## (6) 子育て支援

子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」及び1歳児対象「ぴよぴよクラスファースト」をさらに充実させます。また、2歳児プレスクール「ぴよぴよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

明星小学校と連携し、保護者向けの講演会等を開催します。また常時子育ての相談窓口として幼稚園教員が対応できることやマイルーム利用があることを周知していきます。

## (7) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。さらには衛生管理マニュアルおよび学苑の方針に準拠した感染症防止対策を実行していきます。

## 2-2. 学年毎の計画

### (1) 年少

- ①遊びの中で新たな発見をし、喜びや感動を保育者や友だちと共有しながら興味・関心の幅を広げる
- ②動植物に興味を持ち、観察や世話をすることで、身近に感じ、興味の幅を広げる
- ③生活の中で自分の思いを言葉や態度で表現し、言葉の使い方や意味を知り、関わることの楽しさを感じる

### (2) 年中

- ①思いや考えを言葉で伝え合い、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る
- ②身近な自然や環境に興味を持ち、自発的に観察したり調べたりする
- ③友だちとの関わりを深めながら、個々を發揮して共に育ちあう

(3) 年長

- ①物事の良し悪しを自分で判断し、自ら進んで自発的に行動できる力を身に付ける
- ②自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、友だちとの関係を築き、集団での生活を充実させる
- ③就学に向けて、自ら主体的に考える習慣を身に付け、学びにつながる力を伸長する

3-1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 就学に向けて	A	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>◎「小学校就学に向けて、学びにつながる意欲が芽生えたか」</p> <p>とてもそう思う 32.1%・そう思う 45.7%の合計は 77.8%でした。昨年度（75%）と比較すると 2.8%と高くなっています。</p> <p>学年別にみていくと年少 64.3%・年中 80.4%・年長 86.1%と、学年が上がるにつれて高くなっていることがわかります。</p> <p>昨年に引き続き、小学校教員による「のびのびタイム」、小学校児童と連携した「にこにこの日」などを複数回実施できたことや、JAXA 宇宙教育センターと連携したバルーンロケット制作などが保護者に評価された結果と考えます。</p> <p>◎「生活や運動の習慣は身に付いたか」</p> <p>とてもそう思う 38.6%・そう思う 54.9%の合計は 93.5%でした。就学を前にした年長組では 91.7%でした。</p> <p>◎「社会生活における望ましい態度や習慣、他者への思いやり、協同の精神が芽生えましたか」</p> <p>とてもそう思う 37.0%・そう思う 57.6%の合計は 94.6%でした。就学を前にした年長組では 97.2%でした。</p> <p>以上の結果から、小学校就学に向けて「なだらかな接続」を意識した様々な取り組みを含め、特に年長の保護者に高く評価されたことにより、目標を達成できたと考えます。</p>
(2) 一貫教育の推進	A	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>◎「明星小学校に関する明星幼稚園対象の説明会や個別相談会を通じて、明星小学校についてよく知ることができたか」</p> <p>参加したと回答した保護者の満足度は 99%でした。 (とてもそう思う 49.0% そう思う 50.0%)</p> <p>昨年（93%）に引き続き、内部進学説明会参加者の評価は高く、今後ここ数年の実施形態を維持して実施することが望ましいと考えます。</p> <p>今年度は新たに、内部進学希望者に限定した入学試験体験会を年 4 回開催しました。幼児塾通いが常でない本園保護者にとっては、各回とも入</p>

		<p>学試験のイメージを捉えやすく、負担なく大いに準備の参考になったことが事後のアンケート（以下の設問参照）からも分かります。</p> <p>[お子様にとって有意義な体験の場となったか] 100%の満足度を獲得 (大変有意義だった 95% どちらかというとも有意義 5%)</p> <p>[保護者にとって有意義な体験の場となったか] 100%の満足度を獲得 (大変有意義だった 97% どちらかというとも有意義 3%)</p> <p>また、小学校就学へ向けた「なだらかな接続」は、内部進学の特長を生かし、幼稚園と小学校双方で理解を深めていく必要があります。特に幼稚園での探究活動が、小学校での探究学習に活かされることを念頭に、「めばえの時間」を保育の柱とし、次年度以降も小学校との連携を密に一貫教育を推進していきます。</p>
<p>(3) 教育目標達成に向けて</p>	<p>A</p>	<p>学年ごとの年間カリキュラムと教員のアセスメントシートの目標に、ルーブリックの項目を落とし込み、期末に結果を評価し、次年度の活動へ活かすといったサイクルを取っています。</p> <p>夏の研修会では、昨年度行った研究2つ、</p> <p>①【「なだらかな接続」に向けた幼稚園および小学校における施策に関する研究】は第13回幼児教育実践学会オンライン口頭発表（全日私幼研究機構）</p> <p>②【教育の質の向上を目指す実践研究—ルーブリック評価を通じた園児3年間の成長を可視化する—】は令和4年度教育研究大会ポスター発表（東京都私立幼稚園教育研修会）にて外部へ発信することもできました。</p> <p>また昨年度に引き続き東京都私学財団の補助を受け、以下の研究を全専任教員で実施しました。</p> <p>【「探究」する心を育む保育の実現に向けた実践と考察】</p> <p>こうした取り組みが質の高い保育の実践として園児に還元されていくことが大いに期待でき、今年度から「めばえの時間」として行っているすべての活動の基礎となる「教員力」がより一層高められるサイクルとなっているものとし、評価に値すると考えています。</p>
<p>(4) 心の教育</p>	<p>A</p>	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>◎「園生活において、昆虫や魚などの小動物を身近に感じるようになったか」</p> <p>「とてもそう思う」「そう思う」の合計は73.9%と、前年比+26.9%</p> <p>◎「園はお子様にとって命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝えられていると思いますか。」</p> <p>「とてもそう思う」「そう思う」の合計は86.9%と、前年比+2.9%となり、昨年度はコロナ禍で中止していた行事などが、今年度は実施できたことや、保護者の参観する機会が増えたことで、満足度（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）が上昇したと考えられます。</p>

<p>(5) 英語遊びや外部団体との連携等、多様な体験</p>	<p>B</p>	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>◎「英語遊び」を身近に感じ、楽しみながら英語に興味を持つようになったか</p> <p>とてもそう思う 29.3%・そう思う 53.3%合計は 82.6%でした。 年長組では 87.5%でした。</p> <p>◎「英語遊び」で異文化に触れ、興味関心が世界に広がっているか</p> <p>とてもそう思う 17.4%・そう思う 50.5%の合計は 67.9%でした。 年長組では 72.2%でした。</p> <p>外部団体との連携</p> <p>以下の 3 団体と連携した活動を行いました。</p> <p>1、年長組対象 JAXA 宇宙教育センター</p> <p>幼児向けに画像を用いた宇宙教育講話を聴き、バルーンロケットの制作、飛行実験などを実施しました。実施前にはプラネタリウム見学、七夕、中秋の名月などをきっかけに、月や宇宙、宇宙飛行士、ロケットなどへ興味を向け、当日を迎えることができました。その後の生活でも、宇宙に関する情報に興味関心を持つ園児が増えました。</p> <p>2、年中組対象 NPO 法人 ARDA 影絵専門家によるワークショップ</p> <p>全 2 回のワークショップを実施しました。</p> <p>1 日目は、プロジェクターを光源とした大きなスクリーンの内側に入り、自分の影の大小や角度による見え方の変化などを体感しました。</p> <p>2 日目は親子で透明版にカラーのカットシート（透明）などで作成したペーパーサートを持って、スクリーンに映し出し、物語の世界に入り込みました。大きさのや色の変化がそのまま映ることなどを体験しました。</p> <p>3、全学年対象 臨床美術専門家による芸術活動（制作）</p> <p>年長 本物のイチゴを見たり嗅いだり触れたりして 3 種類の方法で作りました。</p> <p>年中 紙皿に各自の感覚で混色したり、描き方を工夫したりして陶芸の絵付けような感覚で作成をしました。</p> <p>年少 黒厚紙上に円状などのシールを貼り、白絵具を綿棒、スポンジなどを使用して彩色しました。</p> <p>全学年とも、ほぼ全員が作業に集中し、完成後はクラス全員の中で、講師による一人ひとりへの肯定的な講評を聴き、楽しく集中して制作した作品を認められ、充実した様子が見られました。</p> <p>次年度以降も、英語・芸術・理数・運動の面において、多様な体験ができるようカリキュラムを組んでいくこととします。</p>
---------------------------------	----------	--

(6) 子育て支援	A	<p>未就園児対象の「ひよこクラス」「ぴよぴよクラスファースト」(1歳児対象)を年度計画の通り実施できました。</p> <p>入園希望者対象の「ぴよぴよクラスセカンド」(2歳児親子)においてもほぼコロナ禍以前のように実施できました。</p> <p>学苑マイルームと連携し幼稚園内で講演会を実施、通信を配信するなどしました。</p>
-----------	---	---

### 3-2.評価項目の達成及び取組状況(学年毎の計画)

評価項目	結果	理由
<p>(1) 年少組 年少① 遊びの中で新たな発見をし、喜びや感動を保育者や友だちと共有しながら興味・関心の幅を広げる</p>	B	<p>(ループリック5月 1.01→年度末 1.28 +0.27)</p> <p>◎入園当初は子どもたちの状態に合わせて保育室内の環境設定をし、クラス間で情報共有を行いながら玩具の種類や出し入れを行った。</p> <p>◎2学期以降もクラスの遊びの状態を見ながら室内玩具の出し入れを行い、2学期後半からはハサミ指導をしたことで、廃材を自分で切ったり、セロテープで貼ったりしながら、イメージを形にして遊びを進めていくことが出来るようになってきた。</p> <p>◎2学期には年長児が自由遊び中に運動会の踊りを見せに來たり、お店屋さんごっこなどのやり取りを通し、自分たちも”同じようにやってみたい”という気持ちが芽生え、様々なものを自ら想像する力を育むことが出来た。</p> <p>◎3学期にはクラスの前で氷作りを行い、冬の自然に触れる機会を設定した。実際に手に持って冷たさや感触を一人ひとりが味わうことで、興味・関心を広げるきっかけとなった。</p>

<p>年少②</p> <p>動植物に興味を持ち、観察や世話をすることで、身近に感じ、興味の幅を広げる</p>	<p>A</p>	<p>(ループリック 5月 1.16→年度末 1.46 +0.31)</p> <p>◎自分の身近にある動植物に興味・関心が持てるよう、1学期から季節に合わせた絵本や紙芝居、掲示物を用意した。1学期はクラス前のプランターで星型やハート型のキュウリとトマトの栽培を行い、生長の変化を全員で共有する機会を定期的につよう心がけた。野菜嫌いな子も、星型やハート型の形になっていることで生長に興味を持ち、担任の声かけがなくても、自分から変化に気づいて知らせようとする姿も見られるようになった。保護者にもクラス通信を通して生長過程を伝え、収穫時の写真やエピソードを知らせることで、栽培に興味を持ち、会話のきっかけとなった。</p> <p>◎2学期には園庭のザクロや柿、みかんを収穫・会食する機会を学年で持ち、収穫の様子を目の前で見ることで興味を持ち、食べたことがないものにも挑戦しようとする気持ちを育てることが出来た。その他、秋には学苑内散歩で落ち葉やどんぐり、まつぼっくり拾いをし、園庭のオシロイバナを使って色水づくりをするなど、保育者が身近な自然に目を向けられるよう環境設定をすることで、3学期には、クラス前で育てているチューリップの球根の生長を子どもたち同士で確認し合い、保育者に喜んで報告するなど、自分から周りの環境の変化に気づく気持ちを育むことに繋がった。</p>
<p>年少③</p> <p>生活の中で自分の思いを言葉や態度で表現し、言葉の使い方や意味を知り、関わることの楽しさを感じる</p>	<p>A</p>	<p>(ループリック 5月 1.16→年度末 1.46 +0.31)</p> <p>◎入園当初は生活をする中でのルールや約束事を、絵本や紙芝居、イラストを用いて分かりやすく伝え、クラス全員で共有する場を定期的にした。保育者も玩具の取り合いなどのトラブルが起こった際は、互いの思いを言葉で伝えながら、何がいけなかったのか、どうすれば良かったのかを丁寧に指導するよう努めた。</p> <p>◎2学期からはお当番活動を通して、自分の名前や好きな食べ物、発表会の役などを発表する場を持ち、お友だちの様子を見ることで刺激を受け、自らも経験を積み重ねることで、個人差はあるもの人前で発言する事に自信を持つ姿が多く見られるようになった。単語だけ話すのではなく、「〇〇です。」など言葉の正しい使い方や意味を同時に伝えるようにし、少しずつではあるが、意識しながら言葉を選んで話が出来るようになってきている。</p> <p>◎3学期には進級に向け、他クラスの保育者や友だちと関わりが持てる場を設定し、他クラスの友だちに目を向け、普段とは違った環境の中で安心して過ごせる機会を持った。年間を通して様々な行事に対して前向きな気持ちが育ってきているため、普段と異なる環境に期待を持ち、楽しみにする子も多く、関わり合う楽しさは十分味わうことが出来たと考えられる。</p>
<p>(2) 年中組 年中①</p> <p>思いや考えを言葉で伝え合い、言葉によるコミュニケーションの大切さを知る</p>	<p>A</p>	<p>◎自分の思いを言葉で相手に伝える</p> <p>(ループリック 年度当初 2.03→ 2月 2.64 +0.61)</p> <p>◎1学期は、一方的な思いを伝える場面が多々見られ、その都度、正しい言葉で伝えられるよう担任が見本となり知らせてきた。また、クラス全体で考える時間などを設け、共通の意識を</p>

	<p>持って過ごせるようにしてきた。徐々に互いを認め合えるようになり、子どもたち同士のやりとりを見守りながら必要な場面では援助をしてきた。2学期になり、言われて嫌だったことや、されて嫌だったことを担任に報告することが増えたので、担任ではなく、相手に思いを伝えるよう声をかけてきた。担任と一緒に伝えることが出来るが、再度トラブルが起こると担任の元へ伝えに来ることを繰り返し、一人で上手く伝えられないことが多かった。互いに思いを伝え合えるよう援助をしたり、一緒に寄り添ったりすることで、言葉で伝える重要性を再度知らせた。発表会後は仲間意識も強まり、安心して自分の思いを伝え、コミュニケーションが活発になった。それにより遊びにも広がりが見られた。3学期になると、様々な行事を通して、友だち関係が深まり、自己表現が苦手だった子ども自分の思いを言葉にして相手に伝える場面が増えた。トラブルが起きた際も自分の思いを言葉にすることで、気持ちを整理できるようになった。それにより相手に理解されることを知り、気持ちを落ち着かせることにも繋がった。担任は肯定的な言葉を使うよう心がけ、話したい気持ちを十分に受け止めた。聞いてもらえること、共感してもらえることで喜びを感じられるようになり、相手の思いにも気が付けるようになった。</p>
<p>年中② 身近な自然や環境に興味を持ち、自発的に観察したり調べたりする</p>	<p>A</p> <p>○動植物に興味を持ち観察したり、世話をしたりする (ルーブリック 年度当初 2.41→ 2月 2.83 +0.42)</p> <p>◎水あそびや泥あそびなど様々な自然に触れ、のびのびと遊ぶことで探究心が深まり、発見する楽しさや面白さに気付きながら遊びを深めていた。また、身近な生き物(ダンゴムシ、クワガタ、青虫、おたまじゃくしなど)の観察や飼育を設定することで、今まで興味の無かった子ども生き物に積極的に触れようとする姿が見られた。</p> <p>◎持ち帰り絵本の特別付録の図鑑を通して、生き物や植物を自ら調べたり、栽培物の生長や変化にも気付いたりする子が見られた。図鑑を持っての学苑内散策では、気になったことを図鑑で調べる方法や同じ植物を探すなど図鑑の使い方についても知らせ、子どもたちの更なる興味・関心に繋がった。</p> <p>◎空や雲の観察をしたり、大雨の日には雷や雨粒の大きさに気付いたり様々な自然現象に興味を持ち始めるようになった。なぜこうなのか考え、感じたことを互いに話し合う姿も見られた。</p> <p>◎1学期に植えた枝豆、オクラから採れた種に興味を持ち、観察したり、繰り返し植物が育つ面白さ、不思議さに興味を持っていたりしていた。また、小松菜、大根、チューリップの球根も生長がわかりやすかったため、その変化に気が付き、興味を持って観察する姿が見られた。</p> <p>◎寒い日でも陽の当たる場所は暖かいこと、日陰は寒いことなど、自分たちが体で感じたことを言葉にし、友だちと共有する場面が見られた。また、空や飛行機を観察し、距離や高さに興味を持ち、感じたことを伝え合う姿も見られた。気温の低さや空気の冷たさなど、季節の移り変わりに気が付き、子どもたち</p>



		<p>からの身近な小さな気付きを取り上げてきたことで、発見する楽しさをより見つけられるようになった。園庭に出来た氷が溶け、水たまりになることを「どうして?」と疑問に感じ、氷や雪について絵本などを利用して友だちと一緒に探究する姿も見られた。1, 2学期から絵本や図鑑を用いて自分の知りたいことが調べられるということを知らせてきたことで、自ら考える力が身に付き、得た情報を伝える喜びも感じていた。</p>
<p>年中③ 友だちとの関わりを深めながら、個々を發揮して共に育ちあう</p>	<p>A</p>	<p>○友だちとの協同活動に進んで取り組もうとする (ループリック 年度当初 2.08→ 2月 2.87 +0.79)</p> <p>◎進級後、気持ちが不安定だった個々の思いを受け入れ、友だちとの遊びの広がりや友だちとしか出来ないことを見つけれられるよう互いに否定し合わないよう援助をしてきた。年少時の友だちと過ごすことが多かったが、徐々に遊びの輪も広がり、自分の考えたことを相手に伝える楽しさ、受け入れてもらった喜びを感じながらクラスになじむことが出来るようになった。遊ぶことを喜び、互いに刺激を受け、思いを伝え合いながら新しいことを友だちと一緒に考え、個々を認め合えるようにもなった。</p> <p>◎個々に差を感じるような場面(制作、持ち物の整理整頓など)では、一人で難しい子の手伝いに寄り添えるようなきっかけ作りをし、互いに成長し合えるよう環境設定をしてきた。それにより頼れる友だちの存在に気付き、子ども同士で助け合う姿が増えてきた。</p> <p>◎運動会、発表会と一人ひとりがそれぞれの力を出し、互いに励まし合いながらクラスみんなで団結できたことで、個々の自信にも繋がり、より友だち関係も深まった。一人ひとりの個性を受け入れながら、目標に向かっていくこと、みんなで達成することの喜びを伝えながら過ごしてきた。遊びの中で自己表現が苦手だった子も、様々な行事の場面で自己発揮し、表現することの楽しさや、友だちから受け入れてもらう嬉しさなどを感じていた。一人ひとりに合った成長の認め方や褒め方をすることで、新しいことにも物怖じせず挑戦する姿も多く見られるようになった。</p> <p>◎3学期は、クラス間の交流をより深めるため、関わりの浅い友だちと隣の席に座るよう、自分たちで考えて席替えを行った。それにより相手を理解し、自分の思いにも気が付けるようになった。 関わりを深めている姿を見守り、必要以上の援助をしないよう心がけたことにより、一人ひとりが自分自身の成長を実感できるようになった。</p> <p>◎進級に向け、家庭と連携を図りながら、自ら進んで色々なことに取り組めるよう一人ひとりに合った言葉かけ、援助をしてきた。担任、友だちから認められることで、個々の自信にも繋がった。</p>

<p>年長組</p> <p>①物事のよし悪しを自分で判断し、自ら進んで自発的に行動できる力を身に付ける</p>	A	<p>ループリック 年度当初 2.64→2月 3.20 +0.57 入園時 1.65→卒園時 3.20+1.55</p> <p>◎生活ボードや各クラスでの掲示等で、子どもたちが主体的に生活できるようにするとともに、自分たちで判断し、自発的に行動できるような声掛けを心掛けた。 1年を通して良い行動をクラス全体に伝え、認め合う雰囲気作りをしてきた。トラブルが起きた際にはクラス全体に伝え、一緒に考え問題解決することで、問題を自分のこととして考え、行動できるようにした。 クラス以外で起きた問題もクラス間で共有し、学年全体のこととしてとらえることで、自発的に行動したり、物事のよし悪しを自分たちで判断したりできるようにしていった。</p> <p>◎2学期になり、生活の仕方が分かり、自信を持って行動できるようになると、自分たちで園生活の決まりを守ろうとしたり、物事のよし悪しを意識して友だちに伝えようとする姿が見られるようになってきた。 戸外遊びや室内ゲームなど、自分たちでルールを考え、お互いに納得して遊びを進めることが多くなった。時には遊び方をめぐってトラブルになることもあったが、保育者が解決策を出さずに出来るだけ自分たちで意見を言い合う場を設けるようにした。 まだ課題はあるが、自己中心的な考え方から、周囲を意識して発言したり、行動したりする面が見られるようになってきた。自分に自信が持てるようになり、判断、行動ができるようになってきている。</p> <p>保護者アンケート結果 「物事のよし悪しを判断し、自発的に行動しているか」 とてもそう思う(38.9%)そう思う(56.9%)の 計95.8%</p>
<p>年長②</p> <p>自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりする中で、友だちとの関係を築き、集団での生活を充実させる</p>	A	<p>ループリック 年度当初 2.66→2月 3.37 +0.71 入園時 1.85→卒園時 3.37 +1.55</p> <p>◎七夕飾りの制作・自分の得意な事を、基本的にどんなことでも良い「何でも発表会」・当番活動での自己紹介・お泊り保育や運動会の係決めなど、自分たちで選択したり、アイディアを出し合ったりする機会をなるべく増やすようにした。 「何でも発表会」では、友だちの前で発表することの喜びを感じたり、友だちの良さに気付いたり、自分の話を他者に聞いてもらい、相手の考えを知るきっかけを作るようにした。</p> <p>◎2学期には自分を出せるようになり、友だちや担任との会話も増え、言葉で伝えあう喜びを感じられるようになっていった。みんなで考える場面でも積極的に発言をする姿が多く見られるようになった。 様々な行事や活動で自信をつけたことで意欲的に発表をすることも増え、クラスの友だちに自分のことを知ってもらえた、認めってもらえたという経験により、一人ひとりが本来のままの自分を表現しながら、集団での生活を充実させ、認め合いながら生活できるようになった。</p>

		<p>保護者アンケート結果 「友達との共同生活に進んで取り組もうとしているか」 とてもそう思う(47.2%)そう思う(48.6%)の 計95.8%</p>
<p>年長③ 就学に向けて、自ら主体的に考える習慣を身に付け、学びにつながる力を伸長する</p>	A	<p>◎のびのびタイム（小学校教員との連携活動）やにこにこの日（児童との連携活動）など、小学校への期待が高まるような活動を1年を通して行うようにし、廊下には宇宙や自然現象など、興味や関心が広がるような掲示を心掛けた。 総合絵本（個人持ち持ち帰り学習絵本）も活用し、自ら発見したり考えたりする機会が増えるようにした。 自然現象にも興味を持てるように氷づくりをして実際に触れる機会を作ったり、写真を掲示したりすることで更に興味関心を持ち、自ら図鑑で調べるなどする姿が多く見られるようになり、学びにつながる機会となった。</p> <p>◎誕生会で園長が話をした空気砲やSDGsについても各クラスで取り入れるようにし、子どもたちが自ら「知りたい」と思えるような環境設定を心掛けた。 室内玩具は子どもの育ちや時期に合わせて、学びにつながるカードゲーム（UNOやトランプ、トータスゲーム、すごろく、ハリガリなど）や教材を準備することで、友だち同士でルールを教え合い、楽しむ姿が見られた。子どもたちが自然に数や文字に親しみ、学びにつながる工夫をしたことで、無理なく、学びにつながる力が育つようにした。</p> <p>◎3学期には保育室内の絵本貸し出しを行うことで、貸し出しカードに本の題名を書く姿が見られた。また小学校に出向いての「のびのびタイム」ではさらに就学への期待や憧れの気持ちを育むことができた。</p> <p>保護者アンケート結果 「就学に向けて、学びに向かう力が育っているか」 とてもそう思う(44.4%)そう思う(45.8%)の計90.2%</p> <p>保護者アンケートで90%を超えたが、担任が思う程数字が伸びなかった理由として、様々な活動の中で学びにつながる力が育っていると考えるが、保護者は文字や数字の早期習得を学びに向かう力と考えていることも多いと思われ、そうした認識の相違を埋めていくことが必要だと感じた。保護者会等で学びにつながる活動を紹介し、その活動から得る具体的な学びについて伝える必要がある。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>2023年度から本格実施となる「めばえの時間」の①伝える力を養う「コトバ」体験 ②科学の心を養う「なぜだろう」体験 ③豊かな感性を養う「創造力」体験を、これまで行ってきた活動を分類、系統立て、その活動の「ねらい」「実践方法」「結果」「課題」「改善点」について考察し、次年度に活かす取り組みができた。</p>

◎「3. 4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
探究活動「めばえの時間」の更なる充実	次年度から明星幼稚園としては新たに、年間を通しての外部講師による運動遊びを計画している。すべての活動が関係しあって、探究活動として実施できるよう、連携して計画する必要がある。
現在の取り組みの見直しと新たな取り組みの検討	質の高い保育を充実させるために、結果、実施内容を増やすことにならないよう、これまでのカリキュラムを見なおし、幼稚園本来のビジョン、教育目標から逸脱しないことを念頭に、保育計画を立案、実施していく必要がある。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。